

学校教育目標

学校教育目標:「自立と共生」

- 自他を思いやる心を育て、社会で共に生きる力を高めます。【徳・公】
- 健康な心と体を育て、主体的に学び、行動する力を高めます。【体・知】
- 思いを伝えあう力を高めます。【開】

学校概要	創立 43 周年	学校長 上田 弘美	副校長 飯田 富士夫	2 学期制	一般学級: 11	個別支援学級: 3
	児童生徒数:	411 人	主な関係校: 嶮山小学校・荇子田小学校・黒須田小学校・美しが丘西小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	すずき野中・あざみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「協働的な学び」と「個別最適な学び」の充実 <言語能力・コミュニケーション力> <協働して課題解決する力> <情報活用能力・問題発見・解決能力> <持続可能な社会の創造に貢献する力>	すずき野中 あざみ野中 嶮山小 荇子田小 黒須田小 あざみ野第一小 あざみ野第二小	○自分らしく、共に生き、社会に貢献する子 小中学校間で学習指導や生活指導の円滑な接続を重視するとともに、児童・生徒間の交流や小中教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質・能力を育てる。 特に、すずき野中、嶮山小学校とは二校合同の学校運営協議会等を通じて二校での連携を深め、また、荇子田小の『『まち』とともに歩む学校づくり懇話会』にてすずき野中と荇子田小学校の連携を深めることで、「9年間で育てる子ども像」に沿った育成を進める。

中期取組目標

<誰もが安心して豊かに、生き生きと生活できる学校を目指して>

- 生徒一人ひとりに寄り添った指導を行い、学校が生き生きと過ごせる場となるように、生徒・保護者・教職員間の信頼、協力に基づいた教育活動を展開する。
- 教職員間の連携を深め、校内研修・授業研修等を充実させることで、教職員の継続的な資質向上に努める。また、従来の慣習にとらわれず、必要に応じて教職員の働き方を見直し、より効率的な勤務体制と運営組織を作る。
- すずき野中学校支援会を中心とした、地域・保護者による教育ボランティアの活用、すずき野ジュニアサポーターによる学校からの地域行事への積極参加等、地域との連携を図り、開かれた学校づくりを進め、生徒に地域の中の一員という自覚を育てる。
- 学校運営協議会による学校運営の改善を図るとともに、小学校及び地域と密接に連携し、9年間の滑らかな成長ができるように支援する。
- 教職員の働き方を見直すことで業務効率の継続的改善を図り、授業力の向上や生徒に向き合う時間を増やす工夫をする。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①3つの視点「生徒が興味・関心をもって主体的・対話的で深い学び」学習活動を振り返り次へつなげる」「見通しを持って粘り強く学ぶ姿勢を培う」に重点を置く。②学習指導要領(目標・指導・評価の一体化)におけるPDCAサイクルを行う。③日々の授業を通して、授業力向上を目指す。公開授業を行うことで相互評価しあい、授業改善を行う機会を作る。
担当	学習指導部	
徳	人権教育	①特別な教科「道徳」を通して、他教科や総合的な学習・学校行事との関連を図る。自己を見つめ、他の生徒と交流したり協働したりすることで、新しい考えに出会う喜びを感じ、多面的・多角的な見方へと広げる取組を積極的に行う。②年間計画を基準に、行事やその時の生徒の状況に応じて必要な指導内容項目を柔軟に運用していく。
担当	道徳教育推進・人権教育推進担当	
体	健康・安心安全な環境教育	①意識的に身体を動かす機会を作り、運動の楽しさや仲間の協力を感じ、相手を思いやる気持ちを育む。②生徒の実態や状況に合わせて必要な情報を提供し、健康な生活習慣を身に付けるための健康教育を行う。③生徒・職員の意見を基に学校施設の維持や清潔な環境を保ち、相互チェックの体制を確立することでよりよい職場、教育環境をつくる。④災害時に、落ち着いて緊急避難ができるよう避難訓練や防災訓練の方法を工夫する。年3回、定期的に校内の安全点検を行い、事故の防止に努める。
担当	保健体育科・保健指導部	
公開	自分づくり教育	①令和4年度に引き続き、生徒会活動をSDGsの視点で見直し、様々な課題解決に向けた活動になるようにするとともに、生徒の主体的な活動等を通じて様々な場で発信していく。②キャリア教育に関する活動を通し、生徒自身が将来を見据えた進路選択ができるようにする取り組みを行う。また、行事を通して自分を見つめ直す活動を行うことで、生徒一人ひとりが自立できるような環境を整える。
担当	特活指導部	
	いじめへの対応	①月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止や未然防止に努める。②全学年にサイバーモラル講習を行い、啓発を行う。③校内の連絡系統を再確認するとともに、年3回の教育相談や生活アンケート、Y-Pアセスメントの実施と分析を通して、生徒の細かな変化を見逃さない体制を強化する。また教職員のいじめに対する感度を高くするとともに、いじめ防止研修を行い、共通理解をはかり生徒指導部と連携していく。
担当	生徒指導部	
	人材育成・組織運営(働き方)	①コーディネーターを中心に、初任者や経験の浅い職員を対象にした研修・情報交換を実施する。年間を通してメンターチームによる人材育成を充実させることで、学習指導力・生徒指導力・学級経営力などを高める。本校が二校目の職員へのサポートも実施する。②各部署からの研修計画を調整し、様々な活動や学校行事などにも関連付けたPDCAサイクルを意図した研修計画を立案する。
担当	教務部・メンター研修担当	
	地域学校協働活動	①組織的・継続的な地域連携を図ることで教育力の向上を目指し、ボランティア活動に向けて参加生徒を募り「ジュニアサポーター」として積極的に参加していく。②学校がチームとして教育力・組織力を発揮し、地域と協働体制を確立し、共通のビジョンをもった取組の展開を行う。③子どもの健やかな成長と質の高い学校教育の実現を可能にするため、地域学校協働本部・支援会との協働活動を充実させる。
担当	地域交流・学校運営協議会事務局	
	情報教育	①ICT機器を誰もが安心して安全に活用するために、生徒だけでなく教職員の情報モラル、リテラシー能力の向上を図る。②情報活用能力を育成するために生徒の実態を把握し各教科の指導改善を行うとともに、学校司書とICT支援員との連携を積極的に行う。③ICT機器を活用した個別の支援のあり方を検討し、オンライン授業など生徒の状況に応じた支援の充実を図る。
担当	学習指導部・情報教育推進担当	
	特別支援教育	①特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図る。支援を要する生徒に対する理解を深め、丁寧な初期対応を心がけ、安心できる環境を整える。②配慮の必要な生徒に個に応じた支援ができるよう、持続可能な運営を組織的に行う。
担当	特別支援教育コーディネーター	